

# インドで田舎旅

蔵前 仁一

プロフィール  
1956年鹿児島県生まれ。慶應義塾大学卒業。1980年代からアジア、アフリカなど世界各地を旅し、1986年『ゴータ・インド』（凱風社）を出版し旅行作家となる。1995年、出版社旅行人をたちあげ、雑誌『ガイドブック』を発行。主な著書に『わけいても、わけいても』、『よく晴れた日にイランへ』（いずれも旅行人などがある）。

ここ数年、インドへ行くと田舎ばかり旅している。目的は、村の家々の壁に描かれた絵を見ることだ。奇しくもこの号で特集されている沖守弘氏が、長年にわたって取材されてきた壁画がそれである。氏の写真をご覧くだされば、その美しさをよくご理解いただけると思う。僕は氏のあとを追うように、村々をめぐって壁画を拝見している。

このような壁画は観光地で一般公開されているわけではないので、あらかじめ壁画がどの地域にあるか調べ、あとは現地を探すしかない。それが大変なときもあれば、わりと簡単に探し出せることもあり、まさに運次第だ。

僕は研究者でもなく、写真家でもないのですが、このような壁画探しはあくまで旅の一環である。だから、壁画探しという口実で田舎を旅しているといってもいい。壁画が見つからなくても大きな問題はなく、ちよつと残念な気分になるだけだ。だから、探し方もいいかげん。あらかじめ本やネットで探した壁画をプリントアウトし、現地に行つてそれをホテルの人や観光案内所など、さまざまな人に見せて、「こういう絵があるところを知りませんか？」と尋ねるだけである。

現地の言葉も話せず、そんなことで探し出せる

のか？ と疑問に思う方もいらっしゃるだろう。

これが意外に探せるのだ。わざわざ誰かに尋ねなくても、向こうの方から話しかけてきて、「あなたは日本人か？ 中国人か？ ここへ何しに来たんですか？」と聞かれることがしょっちゅうある。観光地でもないところへ外国人が来るのは珍しいので、外国人というだけで注目を浴びるので。

そこで、壁画のプリントを見せて、これがどこにあるか知らない？ と聞く。もちろん知らないことのほうが多い。このような壁画はインド先住民の文化であり、一般のインド人はあまり興味を持っていないのだ。

だが、そこは面倒見のいい人の多いインド。携帯電話を取りだして、日本人が来てて、これこれの絵を探してるんだけど誰か知らないか？ という具合に探してくれるのだ。

僕の経験からいうと、これでほとんど探しあてることができる。誰も知らなければ、そこにはないと判断してほぼまちがいない。

お目当ての壁画があつてもなくても、インドの田舎旅は、このような人々に支えられて、穏やかにのんびりと楽しむことができるのである。

## 月刊 みんなぱく

6月号目次

- |    |   |    |   |
|----|---|----|---|
| 1  | エッセイ 千字文<br>インドで田舎旅<br>蔵前 仁一                    | 12 | みんなく Information                                |
| 2  | 特集 沖守弘インド写真データベース<br>データベースの成り立ち<br>三尾 稔        | 14 | 想像界の生物相<br>ナワル<br>鈴木 紀                          |
| 4  | 写真家沖守弘の足跡<br>五十嵐 理奈                             | 16 | 新世紀ミュージアム<br>ラウテンシュトラウフ = ヨスト博物館<br>山中 由里子      |
| 6  | インドを撮る——写真家・沖守弘の冒険<br>小西 正捷                     | 18 | 手芸考<br>編み込まれた記憶<br>——バブアニューギニアの網袋製作から<br>新本 万里子 |
| 7  | 沖氏の写真がとらえたもの<br>三尾 稔                            | 20 | ながなんちゃ<br>意味か？ 音か？<br>稲澤 努                      |
| 8  | 沖守弘インド写真データベース活用法<br>三尾 稔                       | 21 | 次号予告・編集後記                                       |
| 9  | ラクダ部隊と「小学生新聞」<br>上羽 陽子                          |    |   |
| 10 | 〇〇してみました世界のフィールド<br>済州島と在日済州人の過去・現在・未来<br>永田 貴聖 |    |   |